

# 救済医療における医療の質と医療連携に関する研究

研究分担者

田沼 順子 国立研究開発法人国立国際医療研究センターエイズ治療・研究開発センター  
医療情報室長

## 研究要旨

エイズ治療・研究開発センターでは、定期通院の有無にかかわらず、全国の薬害 HIV 感染者に対して相談等の個別支援を行っている。2023 年 12 月末までに 328 名の他院通院中の患者に対して相談対応を行った。医学的な相談 179 件に対し生活・福祉に関する相談も 186 件あり両者は同レベルのニーズがあることが分かった。一方、首都圏のエイズ治療拠点病院を対象とした薬害 HIV 感染者の通院状況に関する調査では、3 つの都内の施設に約 80%の患者が集中していた。今後、生活・福祉に関する相談に応じられるスタッフの教育や、薬害 HIV 感染者が居住地で医療を受ける阻害因子に関する調査が必要と考えられる。

## A. 研究目的

非加熱血液製剤の使用により 1980 年代に HIV に感染した先天性凝固異常症の患者やその二次、三次感染者に対しては、いわゆる薬害 HIV 訴訟の和解の後、恒久対策として様々な医療的救済策が講じられてきた。国立国際医療研究センターエイズ治療・研究開発センター（ACC）もその恒久対策の一環として 1997 年に設立され、2011 年には薬害 HIV 感染者に対して包括的な相談を行う救済医療室が ACC 内に設置された。2017 年度からは、本人の同意に基づき、医薬品医療機器総合機構（PMDA）から健康状態報告書と生活状況報告書の複写が ACC 救済医療室に届けられ、被害者の個別支援に役立てられている。

ACC には薬害 HIV 感染者が定期通院しているほか、救済医療室では他院通院中の薬害 HIV 感染者に対して電話や出張などによる医療・福祉の相談に応じている。また、その診療と相談対応の質の管理と向上を目的に、診療チェックシート (<https://kyusai.acc.go.jp/aboutus/checksheet/>) などの診療・相談支援ツールを開発してきた。それらのツールは、救済医療の全国的な均てん化を目的にウェブサイト上で公開され、診療や研修に活用されている。

一方、薬害 HIV 感染者の医療やケアのニーズは時代とともに変化してきている。生命予後は、忍容性の高い抗 HIV 療法の普及、C 型肝炎に対する直接作

用型抗ウイルス剤の登場、様々な血友病治療薬の開発に伴い劇的に向上した。長期存命が可能となった現在、高齢化により、生活習慣病、心血管疾患、慢性腎臓病や悪性疾患などの合併症リスクの増加が見込まれているほか、血友病性関節症の進行、メンタルヘルス不調といった長期療養生活に起因する合併症も増加することが予測されている。このような合併症の多様化は、薬害 HIV 感染症に対する診療において多職種・多施設連携のニーズが増えていくことを示唆している。

以上の背景をふまえ、本研究では、薬害 HIV 感染者に対する個別支援において、病病連携の促進と診療の標準化に関する調査を行い、最終的に薬害 HIV 感染者に対する包括診療の質向上に貢献することを目的とする。

## B. 研究方法

以下の 2 つの個別課題に取り組んだ。

### 1) 薬害 HIV 感染者の診療における病病連携の実績に関する調査

救済医療における病病連携のニーズの内容の把握を目的とし、2017 年以降に ACC 救済医療室が病病連携を行った症例について、診療録を用いて後方視的にデータを収集し、得られたデータについて記述疫学的検討を行う。

## 2) 血友病 HIV 感染者の診療の標準化に関する実装研究

薬害 HIV 血友病患者の診療の質の向上と均てん化を目的に、国内外の診療ガイドラインや新たに得られたエビデンスをもとに、2015年にACCで作成した診療チェックシートを改訂する。改訂した診療チェックシートを公開・配布し、その活用頻度や受容度についてアンケート調査を行う。

### (倫理面への配慮)

本研究は、ヘルシンキ宣言に基づく倫理的原則に則り、厚生労働省・文部科学省が定めた「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」および「個人

情報の保護に関する法律」および「国立研究開発法人国立国際医療研究センターの保有する個人情報の保護に関する規定」を遵守して実施した。

## C. 研究結果

### 1) 薬害 HIV 感染者の診療における病病連携の実績に関する調査

2017年4月から2023年12月までにACCが診療または相談を行った薬害 HIV 感染者は409名で、そのうち他院に定期通院している者は328名、何らかの病病連携を行った症例は143名であった(図1)。患者背景を表1に示す。

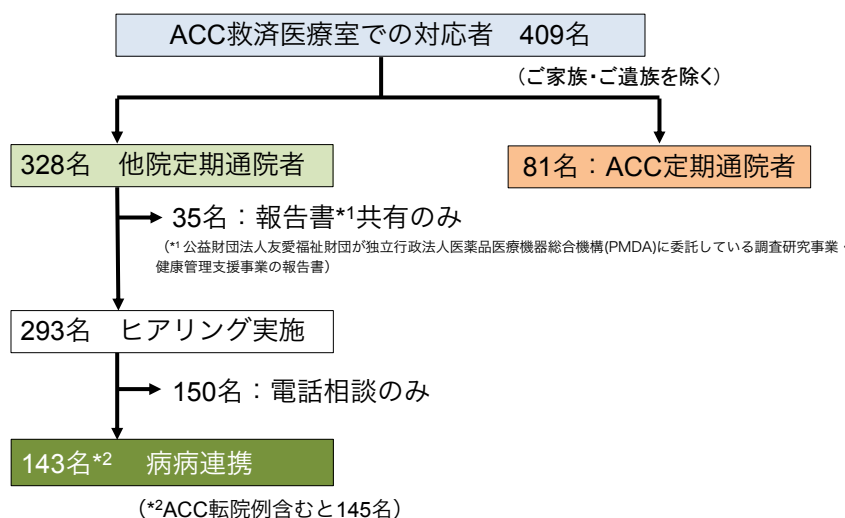


図1. ACC 救済医療室 薬害 HIV 感染者相談 対応区分 (2017年4月～2023年12月)

表1. ACC 救済医療室 薬害 HIV 感染者相談 患者背景 (2017年4月～2023年12月)

項目	Total 328
年齢	中央値 (range) 53歳(13-93)
性別	男性 308 (94)
基礎疾患	血友病 A 236 (72)
	血友病 B 68 (21)
	その他類縁疾患 2 (1)
	二次・三次感染他 22 (7)
HIV 感染症	AIDS 発症 68 (21)
	CD4 陽性リンパ球数 >200/μl 301 (92)
	HIV-RNA 量 = TND 320 (98)
	服薬率 95%以上 325 (99)
肝疾患	IFN・DAAにてSVR, 自然治癒, 非感染 303 (92)
	HCV-RNA 陽性 11 (3)
	肝硬変 62 (19)
	肝癌 21 (6)

病病連携に至った相談内容は、医学的な相談が 196 件、生活や福祉に関する相談が 193 件であった。  
 医学的な相談の内訳は血友病関連が 42 例、抗 HIV 療法関連が 23 例、肝炎・肝硬変・肝疾患が 30 件であった(図 2)。肝移植適応検討症例は 10 例で、そのうち脳死肝移植実施が 3 例、登録が 2 例、適応外が 5 例だった(表 2)。肝細胞癌への重粒子線治

療の適応を検討した症例が 10 名で、9 名が治療を受け、適応外が 1 名であった。  
 生活・福祉に関する相談の内訳は、医療費の負担軽減に関する相談が 145 件と最も多く、次いで社会資源に関する情報提供が 32 件、在宅療養環境の調整が 13 件であった(図 3)。

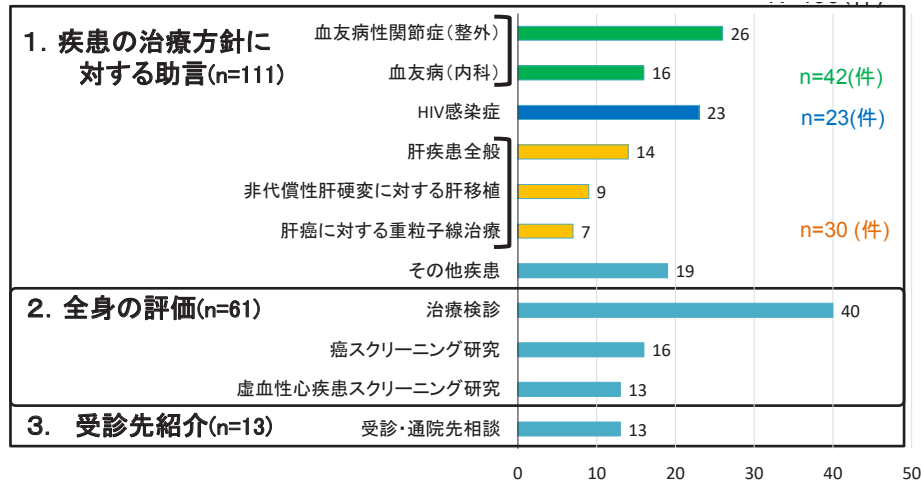


図 2. ACC 救済医療室 薬害 HIV 感染者相談 病病連携：医療に関する相談の内訳 (2017 年 4 月～ 2023 年 12 月)

表 2. ACC 救済医療室 薬害 HIV 感染者相談 肝移植適応検討例 (2017 年 4 月～ 2023 年 12 月)

No	年	年齢	Child-Pugh	HIV・肝不全以外の合併症	転帰(2023 年 12 月末現在)
1	2018	50 代	A	肝細胞癌	肝機能 良好にて適応外
2	2018	40 代	A	胆管細胞癌の既往	肝機能 良好にて適応外
3	2018	30 代	A		肝機能 良好にて適応外
4	2018	60 代	C	大動脈弁狭窄症、糖尿病腎不全(維持透析)	重症心疾患により適応外
5	2018	60 代	C	脾摘後、頭蓋内出血既往	脳死肝移植(実施)
6	2019	60 代	C	腎不全(維持透析)	脳死肝腎同時移植(実施)
7	2020	50 代	B	感染性心内膜炎既往、心雑音	脳死肝移植登録 (待機中)
8	2020	30 代	B	糸球体硬化症疑い	脳死肝移植登録 (待機中)
9	2021	50 代	C	狭心症、糖尿病、慢性腎臓病	脳死肝移植(実施)
10	2021	60 代	B	肝細胞癌、不整脈	肝細胞癌*により適応外

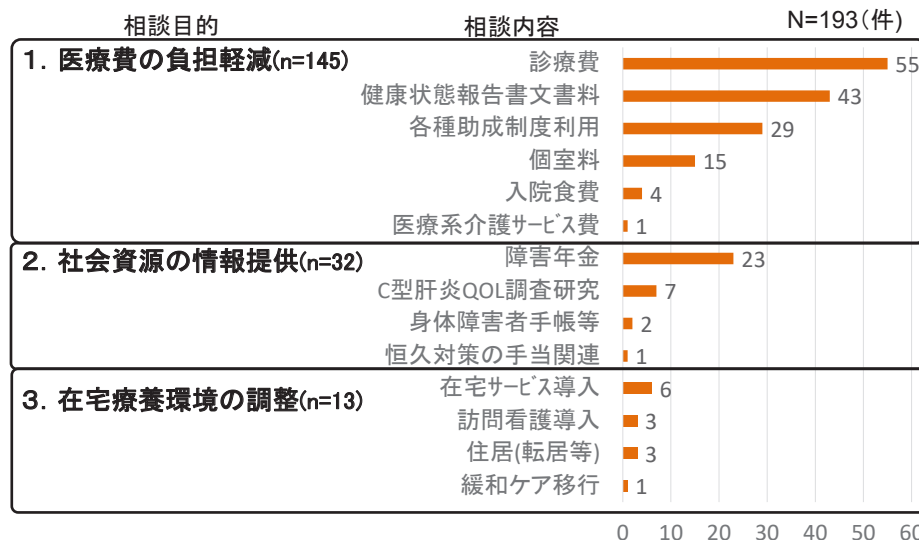


図 3. ACC 救済医療室 薬害 HIV 感染者相談 病病連携：生活・福祉相談の内訳 (2017 年 4 月～ 2023 年 12 月)

## 2) 血友病 HIV 感染者の診療の標準化に関する実装研究

2022年度は、国内外のHIV感染者と血友病患者に対するプライマリケア診療ガイドラインや新たに得られたエビデンスを検索し、2015年にACCで作成した診療チェックシートの内容を吟味・整理し、改訂版に含めるべき疾患項目まとめた。疾患項目ごとに専門家を選定し、解説文を執筆して頂き、それらの解説文を2024年3月にウェブサイトで公開した。

## D. 考察

薬害HIV感染者の診療における病病連携の実績に関する調査においては、救済医療室の個別支援が肝移植・肝細胞癌に対する重粒子線治療を提供する施設とかかりつけ施設との連携に重要な役割を担っていることが改めて示された。ACCが相談対応した他院通院中の患者からは、医学的な相談と同等かそれ以上に生活・福祉に関する相談が多いことが明らかとなった。今後、救済医療の現場においては、医療連携を円滑に進めるスキルがより一層必要となるものと考えられる。

## E. 結論

薬害HIV感染者の救済医療・個別支援においては、医学的相談と生活・福祉の相談の両者が同等のニーズであった。

今後、生活・福祉に関する相談に応じられるスタッフの教育や、薬害HIV感染者が居住地域で医療を受ける阻害因子に関する調査が必要と考えられる。

## F. 健康危険情報

なし

## G. 研究発表

### 1. 論文発表

- 1 Matsumoto S, Nagai M, Tran LK, Yamaoka K, Nguyen HDT, Dinh Van T, [Tanuma J](#), Pham TN, Oka S, Van Tran G. Multicenter observational survey on psychosocial and behavioral impacts of COVID-19 in people living with HIV in Northern Vietnam. *Sci Rep.* 2023 Nov 21;13(1):20321.
- 2 Parcesepe AM, Stockton M, Remch M, Wester CW, Bernard C, Ross J, Haas AD, Ajeh R, Althoff KN, Enane L, Pape W, Minga A, Kwobah E, Tlali M, [Tanuma J](#), Nsonde D, Freeman A, Duda SN, Nash D, Lancaster K;

IeDEA Consortium. Availability of screening and treatment for common mental disorders in HIV clinic settings: data from the global International epidemiology Databases to Evaluate AIDS (IeDEA) Consortium, 2016-2017 and 2020. *J Int AIDS Soc.* 2023 Aug;26(8):e26147.

- 3 Nagai M, Matsumoto S, [Tanuma J](#), Nguyen DHT, Nguyen DT, Mizushima D, Oka S, Pham TN. Prevalence of and factors associated with diabetes mellitus among people living with HIV in Vietnam. *Glob Health Med.* 2023 Feb 28;5(1):15-22.
- 4 Han WM, Avihingsanon A, Rajasuriar R, [Tanuma J](#), Mundhe S, Lee MP, Choi JY, Pujari S, Chan YJ, Somia A, Zhang F, Kumarasamy N, Tek Ng O, Gani Y, Chaiwarith R, Pham TN, Do CD, Ditangco R, Kiertiburanakul S, Khol V, Ross J, Jiamsakul A; IeDEA Asia - Pacific. CD4/CD8 Ratio Recovery Among People Living With HIV Starting With First-Line Integrase Strand Transfer Inhibitors: A Prospective Regional Cohort Analysis. *J Acquir Immune Defic Syndr.* 2023 Feb 1;92(2):180-188..

## H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

なし